勿来工業高等学校建築科ＯＢ会 事務局だより

発行所
いわき市植田町本町三丁目8-13
発行者
勿来工業高等学校
建築科ＯＢ会
会長 櫛田 常雄
TEL 0246(63)7489
（事務局）

第3回 勿来工業高等学校建築科ＯＢ会 総会

総会懇親会に出席して

副会長　本田　傳

ヤアーどうも　元気でしたか、親しみに満ちたこんな風な挨拶で異年令、異世代の方とのスムーズな親交、この妙な安心感、安堵感はＯＢ会ならではと思うのは自分だけではないなと実感しつつ、発会時に会長が発言したＯＢ同志の『ネットワーク造り』は、様々なスタイルで、確実に進んでいることを確認できた懇親会でした。今後ともＯＢ会が目に見えぬ精神での連帯感を得るために、自分自身も熱い気持ちを今後共維持したい。そんな気持ちを強く感じさせてくれた懇親会でもありました。

色んな機会により多くのＯＢの皆さんとお逢いできることを楽しみにしてます。

ＯＢ会発足二年を顧みて

ＯＢ会会長　櫛田　常雄

日頃はＯＢ会の運営に対し、御協力と御理解をいただき誠にありがとうございます。

さて、昨今の社会状況は、バブル時代崩壊後長期にわたり経済低迷が続いており、平成七年を迎え、ラッキーセブンの年でありたいと願っておりましたが、年明早々に阪神大震災、オウム真理教による一連の事件、そして円高による経済低迷と、今の社会経済状況は混沌とした状況にあり会員の皆様も大変ご苦労されていることと拝察いたします。

早いものでＯＢ会も発足二年を経過し、この間会員の皆様の御協力によりまして、会員名簿の発行、講演会の開催、第一号の事務局だよりの発行等を行ない、現在は在校生の卒業により仕事の合間の貴重な時間を割いて行なっているもので、事業量、内容については限界があることを会員の皆様に御理解を賜りたいと思います。

ＯＢ会の発展につながるものと考えており、ＯＢ会のこの二年間の実績を踏まえて、今後の運営方針を模索していかなければならない時期と考えております。

また、七月の第三回総会において会長に再任をいただき重責を感じており、微力ではありますがＯＢ会発展のため新役員共々頑張りますので会員の皆様の御指導、御協力を賜りますようお願いいたします。

終りになりますが会員の皆様の益々のご活躍とご健勝を御祈願申し上げます。

申し上げるまでもなく、ＯＢ会は会員相互の親睦を計ることを目的とした会であり、会員がＯＢ会の行事に何らかのかたちで一人でも多くの方々に参加していただくことがＯＢ会の発展を図り、卒業設計競技を行ない、ＯＢ会の運営としては一定の目標は達成できたものと考えております。

ＯＢ会の事業遂行に当りましては、役員の方々の奉仕作業により仕事の合間の貴重な時間を割いて行なっているもので、事業量、内容については限界があることを会員の皆様に御理解を賜りたいと思います。

懇親会出席

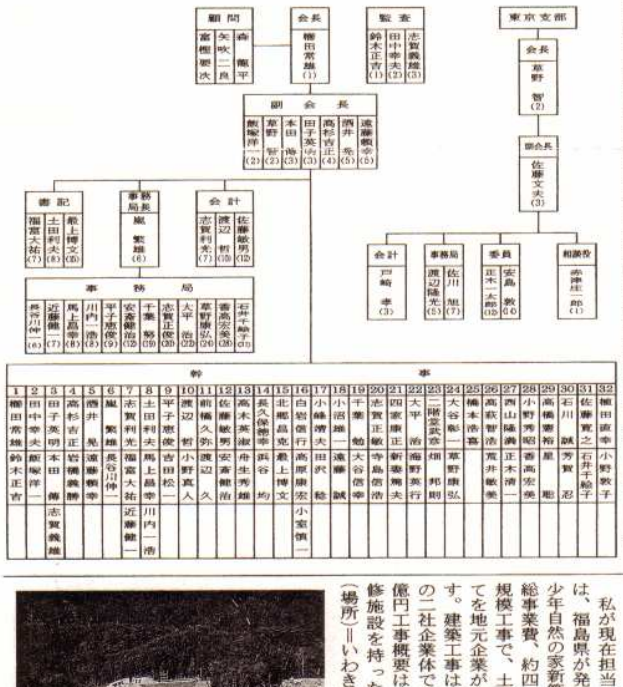
事務局　近藤　健一

第三回総会終了後、別室において懇親会が行われました。櫛田会長の挨拶、矢吹建築科長の祝辞と続き、各回生ごとに陣取られていたテーブルも、時間がたつにつれ、いろいろなサークルにまとまり話にも熱が入っていたようです。富樫先生も今年卒業したＯＢをつれ、先輩方に紹介し先輩・後輩の交流に一役買って居られた様子です。

宴も盛り上がって、元応援団によるエールにて懇親会の幕も閉じ、まだ燃焼しきれない人達は、平の街に消えていきました。

次回も今回より多くの同窓生が参加し楽しく語り合える事を期待します。

勿来工業高等学校建築科ＯＢ会組織図

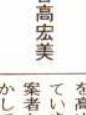


活動状況報告

東京支部長　草野　智

師走の折、皆様にはますます御健勝のこととお喜び申し上げます。日頃はＯＢ会の活動に御指導・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。東京支部も皆様方に参加して戴く機会をつくるべく年間行事を決め進めてまいりました。残念ながら今年に見学会とイベントの企画が計画倒れになり、又私達役員の事務局であった渡辺さんの部合により事務局として活動出来なくなって会合の場所は協議の上そのつど移動しております。そんな理由で本年は皆様に大変迷惑をかけ深く反省しております。そんな中で今年7月に第一回親睦ゴルフコンペを栃木県で開催致しました。役員含めて十二名の参加を戴き一日を有意義に過す事が出来ました。今後もより多くの方に参加を呼びかけ会の活性化の為に年間行事として続けて行きたいと思っております。又我々役員一同は今後会の発展の為に本部と協議し近い将来何か社会に役立てる様なイベントを企画したいと考えております。特に支部の役員は年長組が多く、若い方々との交流をはかる為にも是非行事に参加戴き意見の提案を下さる様お願い申し上げます。末筆乍ら会員各位の益々の御活躍をお祈り申し上げます。

女性建築士として



香高宏美

卒業して四年、二級建築士を取得して一年がたちました。最近やっと自分のやりたいことが分かってきました。

私の家は工務店を営んでいるせいもあってか、住宅産業に興味があり建築科に入学しました。現在住宅の設計を主にしています。興味のあることを毎日仕事としてやっているので、とても楽しく充実しています。

青少年自然の家

12回生　安斉　健治

私が現在担当している工事は、福島県が発注の「いわき少年自然の家新築工事」です。総事業費、約四十五億円の大規模工事で、土木・建築すべてを地元企業が施工しています。建築工事は、堀江・山木の二社企業体で工事費約十七億円工事概要は、（用途＝研修施設を持った宿泊施設、（場所）＝いわき市四倉町字栗木作地内、（構造）＝鉄筋コンクリート三階建、（規模）＝建築面積四、四一七㎡、延べ床面積六、一九八㎡、（用途別棟＝管理棟、宿泊棟、研修棟、体育館棟、（工期）＝平成六年十二月二十六日～平成八年六月三十日に完成予定です。

建物の特徴は、本館全体が山の斜面を利用した半径九十三Ｍ。内外壁がコンクリート打放し仕上、さらに屋根は変形した合掌の四寸勾配に瓦とフッ素鋼板葺き仕上になります。

また、内部中央の階段には、それを取り巻く様に障害者用のスロープが一体となった、コンクリート打放し躯体となります。

このように、複雑な形状の為躯体施工図には、大変苦労していますが、毎日を勉強とし、完成まで安全に配慮しながら頑張りたいと思います。

女性の立場での現場管理業務について

クレハ建設　志賀智子

私は、机に一日中向かっている仕事より、これから十年・二十年後にも形として残る仕事をやりたいと思い、この職業を選びました。

入社する前は、建設業というのは「三Ｋ」というイメージが強かったのですが、実際に現場に出てみると、さほど気にはならず、現在に至っています。

仕事をしてる中で、一番印象に残っているものは、足場を解体し終えた時で、足場がある時は建物が出来たという実感がありませんでしたが、解体後、でき上ったという喜びと満足感が感じられました。

以前に比べて、現場を希望する女性も増えてきましたが、やめる人も多いという現状の中で、この先、この仕事に就いて本当に良かったと心から思えるような、建物を造っていきたいと思います。

女性の立場での現場管理業務について

志賀智子

私は、机に一日中向かっている仕事より、これから十年・二十年後にも形として残る仕事をやりたいと思い、この職業を選びました。

入社する前は、建設業というのは「三Ｋ」というイメージが強かったのですが、実際に現場に出てみると、さほど気にはならず、現在に至っています。

仕事をしてる中で、一番印象に残っているものは、足場を解体し終えた時で、足場がある時は建物が出来たという実感がありませんでしたが、解体後、でき上ったという喜びと満足感が感じられました。

以前に比べて、現場を希望する女性も増えてきましたが、やめる人も多いという現状の中で、この先、この仕事に就いて本当に良かったと心から思えるような、建物を造っていきたいと思います。